

平成30年度第4回行政評価委員会（人づくり・地域づくり部会）会議録

1 開催日時

平成30年10月12日（金） 午後1時30分～3時

2 開催場所

花巻市役所 3階小会議室

3 出席者

(1) 委員 6名

堀籠義裕委員（部会長）、青木明希委員、久保田廣美委員、福盛田弘委員、
佐藤洋子委員、曾我紀子委員

(2) 説明者（施策主管課） 1名

中村哲学校教育課長

(3) 事務局（施策及び事務事業評価担当課） 2名

秘書政策課：高橋誠課長補佐

財政課：八重樫雅喜課長補佐

4 議題及び報告事項

市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策である「学力・体力の向上」について評価を行った。

(1) 施策主管課による説明、質疑応答

(2) 委員会の評価結果集約

5 議事録

(1) 施策主管課による説明、質疑応答【主な意見・質疑等】

施策3-2-1「学力・体力の向上」について

久保田廣美委員：体力向上実践推進事業で、実践する学校を3校指定しているが、1年経過後、指定された3校は独自に事業実践を行うということか。

中村哲課長：1年だけの指定だと有効性等の検証が難しいので、基本は2年間の指定期間で実施している。

青木明希委員：3校の実践校指定とのことだが、増やす計画はあるのか。

中村哲課長：事業開始時に3校指定でスタートし、以降、市内各校順番に指定している。

堀籠義裕委員：施策評価シート「◎前年度の評価の振り返り」「前年度評価時の今後の方向性」②に「～家庭学習の重要性や部活動の適正化等について家庭や地域に働きかける。」という記述があるが、このことに対する取組状況の記載がない。どのようなことを取り組まれたのか。

中村哲課長：例えば家庭学習時間の状況だが、1日に2時間以上あるいは3時間以上勉強している児童・生徒の割合が全国の平均と比較すると花巻市は低い。こういった状

況等について、校長会議やP T Aの会議の場でお話ししている。また、部活動の時間について、休養日の設定等が適正なものとなるよう基本方針を策定して各学校に依頼・通知している。

佐藤洋子委員：各小・中学校の学力向上アクションプランは、各学校に策定等を委ねているのか。

中村哲課長：各学校に策定を依頼し、取組等を考えていただき、その結果等を報告いただいている。

堀籠義裕委員：施策評価シート「◎前年度の評価の振り返り」「前年度評価時の今後の方向性」の①に「～指導主事や専門職員が意図的に訪問指導を行う。」という記述があるが、意図的とは？

中村哲課長：特に学力の低い学校を訪問し、学力指導等を行っている。学力向上支援員が年間で延べ55回、各学校を訪問しているが、学力の低い学校には特に多く行っている。

堀籠義裕委員：結果の良くなかった学校への指導による、学力の底上げという意図があるということか？

中村哲課長：そうです。

久保田廣美委員：施策評価シート「3成果指標の達成」「体力・運動能力調査」の記述で、小学校については達成度に関する背景を記述しているが、中学校については背景の記述がない。中学校の達成度が低かった背景は何かあるのか。

中村哲課長：なぜ中学校の達成度が低かったのかの詳細分析には至っていない。平成29年度の結果で特徴的なものは、中学校1年生女子が、ハンドボール投げ以外全てが全国の平均以下というものがある。

福盛田弘委員：今の子供は体力が低く、ひいては学力低下にも影響してくると感じる。また、ゲームに時間を費やしていることも要因のためか、眼鏡をしている子供も多い。体力は基本だと考えるが、教育委員会ではどう考えているのか。

中村哲課長：一般的に言われているのは、家に帰ってから外で遊ばなくなったということがある。また、木にぶらさがる等の遊びも少なくなり握力低下に繋がっていることも考えられる。ゲームやスマートフォンへの依存が強い子も多く、なかには治療を受けている子供もいる。ゲームやスマートフォンに関する各種指導についてはこれまでも実施しているが、だんだん低年齢への指導になってきている。以前は中学校で指導だったが、今は小学校、幼稚園、保育園の親御さんへの啓蒙、指導をしている。

曾我紀子委員：肥満児童が増加傾向とのことだが、食育教育は行わないのか。

中村哲課長：中学校であれば保健体育、小学校であれば学級活動の時間で、栄養教諭による教育等行っているが、まだまだ時間が足りていないと感じている。

佐藤洋子委員：肥満傾向については、学校での取組も大事だと思うが、家庭での取組も大事ではないのか。

中村哲課長：食事については、小さい頃の習慣が将来に影響するものと思うので、家庭の理解・協力は大事であると考えている。

青木明希委員：肥満傾向のことについては、授業の中で何か取り組んでいるのか。学校保健事業の生活習慣病検診でしか取り組んでいないのか。

中村哲課長：市が行う事業では、学校保健事業で健診を行っているが、授業での取組については確認のうえ報告する。

佐藤洋子委員：今は各学校に雲梯などの遊具はあるか。握力が弱いのであれば、雲梯等で遊ぶことが有効だと思うが。

中村哲課長：学校によって状況に違いはあるが、安全面等に配慮して減少傾向にある。

福盛田弘委員：肥満の子供が増えている現状から、スマートフォン等の制限や食べ物のチョイス等、学力・体力の向上のため家庭の協力もいただくようPTAを通じてお願いすることを強化してはどうか。

中村哲課長：いろいろな機会を通じてPTAの方に理解いただけるよう周知したい。

佐藤洋子委員：スマートフォンの使用制限等について市で条例化してはどうか？出来ないものか。

中村哲課長：スマートフォンの利用等のルールについて定め、各学校に配布してはいる。

事務局：市民が個人で購入するスマートフォンであり、条例で使用の制限をかけることはできない。

(2) 委員会の評価結果集約【施策評価検証シートの整理】

施策3-2-1「学力・体力の向上」について

●「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているか

堀籠義裕委員：先程の質疑で確認させていただいたが、今後の方向性に記載があって、反映状況に記載のないものがある（方向性と反映状況は連動しているはず）ので、記載するべきと思う。

曾我紀子委員：反映状況に記載されている「新たに体力向上実践校を～」だが、H28、29の2か年指定なので「新たに」という記述はおかしい。言葉が足りない。

青木明希委員：反映状況に記載されている「英語検定受験の補助について、周知を図った結果、受験率が高まった」とあるが、「検定試験受験の補助を検討した結果、補助を行うこととし、受験率が高まった」という書き方ではないか。H28年度に補助を検討し、H29年度に実施したのではないか？

堀籠義裕委員：方向性に対し、どのような取組を行ったかが、説明が不足している。以上でよろしいでしょうか。

委員：はい。

●「5施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか

堀籠義裕委員：新たに取り組むべき事業として、体力向上のことで家庭での取組への支援を検討してもいいのでは。

青木明希委員：小中学校の前の段階での取組、例えば幼保小中の連携による子供の体力向上の取組が必要ではないか。

堀籠義裕委員：はなまき授業サポーター及び中学校サポーターについて、「可能であれば

増員も検討したい」とあるが、なぜ増員が必要なのか、その背景・理由も記載すべき。

- 「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか

堀籠義裕委員：先程の質疑で久保田委員から「体力・運動能力調査」の記述で、小学校については達成度に関する背景を記述しているが、中学校については背景の記述がないとありました。中学校の達成度が低かった背景の分析とそのことの記載が必要ということ部会の意見としたい。

- 「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか

久保田廣美委員：体力向上実践校の指定は3校だけだが、「各学校の取組を支援する」という書き方でよいか？例えば「3校を指定することで全体の体力向上の取組につなげる」とかではどうか？

佐藤洋子委員：体力向上実践校として3校を指定したことで、他校はどうなったのかを記述してほしい。

堀籠義裕委員：課題の書き方、今後の方向性の書き方ともに不十分と感じる。3校を指定することで、どのように全体的な対応に繋がるか、目指す姿を意識した記述が必要。課題に実践校の指定による成果の総括を踏まえたような記述を追加してほしい。実践校の指定が基礎体力向上にどのように繋がれたか記載を追加してほしい。以上の2つを意見とします。

- 「シート記載内容全般について」

青木明希委員：説明不足の部分があり、全体的に分かりやすい記述に努めてほしい。